

自己評価結果表【タイプB】（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	自己評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	B	周知はされているが、園全体として深められていない。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	自己評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	A	施設長、事務員だけでなく、経営状況の把握に努めた。園の経営に特化した会議発足し、継続して開催した。
② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	B	経営に特化した会議を開催し、課題解決に向けての取り組みを開始している。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	自己評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	B	策定はされているが、見直しも必要。
② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	C	事業計画書の中に記載されていない。
(2) 事業計画が適切に策定されている。	自己評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	B	組織的な見直しは行っているが、職員に周知できていない。
② 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	C	子どもや保護者への説明は実施していない。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	自己評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	A	各会議の時間を活用し、意識向上を促し日々改善に向けた取り組みを行っている。
② 9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	B	調査結果の共有は行っているが、計画的な改善策は実施していない。

Ⅱ 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	自己評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	B	施設長休職中の為、代行を立て、その中で代行の役割を説明した。
② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	B	施設長休職中の為、代行を立て、取り組みに努めた。
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。	自己評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① 12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	B	施設長休職中の為、代行を立て、各主任と共同して養育の質の向上に努めた。
② 13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	B	施設長休職中の為、代行を立て、各主任と共同して取り組みに努めた。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	自己評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	B	人材確保のための活動と職員育成の研修等を計画的に行っているが、職員定着について課題がある。
② 15 総合的な人事管理が行われている。	B	施設の理念と方針は明確に示し、人事基準に基づいた管理がされているが、職員個々の能力を適切に評価し、人事・処遇に反映できていない部分がある。
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	自己評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	A	今後改善しなければならないところは数多くあるが、会議・委員会で積極的に職場環境改善に努めており、改善の仕組みと取組はなされている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	A	主任による担当職員への面接、リーダー的職員を対象にしたEAP従業員援助プログラム)を定期的の実施している。
②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	A	研修計画等を策定し、実施している。
③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	B	職員が研修に参加できるための体制(予算確保、規定、計画)を整えてはいるが、業務的に参加時間の確保が難しい職員が多い。(職員により差がある)
(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	A	養成校との連携、施設内での適切な受け入れ態勢が整っている。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	A	ホームページなどで積極的に施設の理念、方針、財務、事業計画を積極的に発信している。
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	A	経理規定を定め、それに則った会計処理をしている。また外部の専門家からの助言を受けて運営をしている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	A	地域行事への参加や施設行事の開催を含め、地域からの理解を得ながら良好な関係が成り立っている。
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	ボランティア受け入れに関する方針や体制、マニュアル等が整備されており、それに基づき受け入れをしている。
(2) 関係機関との連携が確保されている。		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	A	関係機関とは定期的な連絡会を行い、必要に応じて適切な情報交換を行っている。
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	B	行政機関と連携し施設としての役割を果たし、地域との交流や会合への参加も積極に行っているが、ニーズ把握の積極性が十分とは言えない。
②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	B	施設内地域交流ホールを町内会をはじめ地域の団体、個人に貸し出す事業を行っている。

III 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	A	養育のしおりを作成し、職員会議でグループディスカッションを行っている。
②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	B	外部の人は居室に入らないなど、子どもに配慮した対応が出来ているが、ホームによって配慮に差がある。
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	B	行っているが、クオリティがまだら。
②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	B	子どもに対しては説明するが、保護者に対しては出来ない場合が多い。定期的に行う必要がある。
③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	B	乳児院からの措置変更や家庭復帰のケースなど継続性を大事にし丁寧に対応している。
(3) 子どもの満足の向上に努めている。		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	B	意識しながら子どもと関わっているが、子ども運営委員会など仕組みとしては機能していないことがある。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。	自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	A	意見箱の仕組みなど集会で周知されている。
② 35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	B	1対1のヒアリングの時間を確保するなど意見を述べやすい環境はつくっているが、子どもから相談しやすい環境とは言い難い。
③ 36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	B	意見箱は月に1回確認をしているためタイムラグができ迅速さに欠ける。
(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	B	みんなの委員会で園全体のリスクを共有しているが、職員の人員配置が足りず、安心・安全が確保されない環境にある。
② 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	B	全職員で嘔吐処理の講習を受け、一式整備された。知識としてはまだ不十分。
③ 39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	B	避難訓練は行っているが、様々な想定をした訓練が必要。

Aブロック

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	B	文書化はされているが、実施されていることにはホームによって差がある。
② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	B	運営会議で意見を集約する仕組みはできている。
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。	自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① 42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	B	職員によって取り組む姿勢に差がある。また、人員不足により話し合う時間を設けることが難しい。
② 43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	A	定期的に行っている。
(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。	自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① 44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	B	職員によって文章の特徴に差があり、標準化されていない。
② 45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	B	処遇システムの子どもの情報が更新されていない。

内容評価基準（25項目）A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	B	意見箱がある。権利ノートの日常的な活用が出来ていない。
(2) 権利について理解を促す取組	自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	B	全児童、職員が集まる集会を開き、説明をしている。日常の中での取り組みとしては実施できていない。
(3) 生い立ちを振り返る取組	自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。	B	必要な時期を見定めて振り返りを行っているが、継続的に取り組めていないケースもある。
(4) 被措置児童等虐待の防止等	自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	B	養育マニュアルを作成しているが、不適切養育の早期発見に対しての取り組みはできていない。
(5) 子どもの意向や主体性への配慮	自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	B	共生の意識は持っているが、ユニットによって意識の差がある。
(6) 支援の継続性とアフターケア	自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
① A6 子どものもそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	B	自活訓練ができる環境を整え、移行期の支援を行っている。
② A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	B	卒園生の集まる場として会を催すことを年に複数回取り組んでいる。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかりと受け止めている。	B	受け止める姿勢はあるが、質に関しては努力が必要。
②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	B	生活を共にする事で子どもの利益になる様に日々支援をしているが、基本的欲求の充足が出来ているかは不明。
③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	B	信じて見守る姿勢は大切にしているが、すべて子どもの主体性が保証されているわけではない。
④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	B	発達の状況に応じた場を提供しきれていない。
⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	B	職員の経験年数やスキルによつての差が出やすい。
(2) 食生活		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	B	各ホームで調理を行っており、配膳なども各自で工夫して行っている。
(3) 衣生活		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	B	基本的に衣類の確保を十分にしているが、購入する時間を作るのが難しく、準備が遅れてしまう場合もある。
(4) 住生活		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	B	子ども達の事を考えながら各自整美をしているが、全体で見るとまだ必要な部分は見られる。部屋が足りず倉庫を部屋として使用している現状がある。
(5) 健康と安全		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	B	医療的支援が必要な児童には様々な医療機関を活用し、支援にあたっている。
(6) 性に関する教育		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	B	正しい性の知識を必要とする児童には兎相と連携し、取り組んでいるが、全体での取り組みとしてはまだ不十分と言える。
(7) 行動上の問題及び問題状況への対応		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	B	暴力等にはその都度振り返りをして対応するが、子どもによっては重要性がなかなか伝わらない場面も見られる。
②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	B	全体で集会を行い、職員全体の意識の向上をしている。
(8) 心理的ケア		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	B	兎相心理の活用、園内心理の活用を積極的に行っている。園内のケース会議等にも心理士が参加している。
(9) 学習・進学支援、進路支援等		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	B	塾や学習ボランティアを活用している。子どもによっては休日に職員が用意したプリントを行っている。
②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	B	自己決定できる様支援はしているが、虐待の影響等から、なかなか自己決定できない場合が増えてきている。
③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	B	外部機関を活用し、職場体験等の機会を増やしている。高校生にはアルバイトを行える様支援している。
(10) 施設と家族との信頼関係づくり		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	B	各ホームでの対応になりがちではあるが、取り組みは行っている。
(11) 親子関係の再構築支援		自己 評価結果	【判断した理由・特記事項等】
①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	B	ファミリーホーム等を活用し、再構築に向けて家庭的な関わりをする機会を増やしている。

総評：

A・B・Cの三段階評価としている。A:20%、B:77%、C:3%と言う結果で、C評価が少ないのは、自分たちを過小評価せず、業務や組織に対しての働きに責任と自発性が育ってきた表れと解釈できる。

今年度は、施設長が体調不良により不在となり、施設長代行のリーダーシップにより運営が成された1年であった。施設長が策定した事業計画を実行し成果を導きだしていこうとする姿勢は、十分評価に値する。

施設長代行、主任、事務室を中核に施設全般の方向性を整理し、フロアリーダーが日常業務の調整を図るなど、役割分担が成され、心理療法士、調理室、エンジェル部門との連携が施設長代行が中継点となりスムーズに行われたことも評価できる。

組織にとってトップリーダーの不在は、混乱を招きかねないが、その（－）要因を、施設長代行や主任などのリーダー的役割の職員の自覚と責任感、そして、チームワークが、課題解決に大きく貢献し、混乱を最小限に抑えたと言える。

今年度は、養育標準化、生活のルール、子どもたちとのコミュニケーション、職員人材育成、業務改善など、これまで培ってきたことを実行し安定化させていくミッションの年であった。その中で、欠点や力量不足が表面化する中で、A評価ではなく、B評価を選択せざるを得なかった点が挙げられる。

年度途中における退職者は、子どもたちへの心理的影響、業務負担の増大など、不利益しか生じないが、今年度は、複数名に至っている。職場環境改善は大きな課題として認識しているが、最善の策が導きだされていない点は、事業所として対策が求められる。

まだ、最適な運営に向けては道半ばであるが、今後も職員たちがチームとして機能し、子どもたちの安心安全な生活の構築を進めていきたい。